

無痛分娩に関するご案内

あきせウィメンズクリニック

当院では、無痛分娩をご希望の方に無痛分娩を行っています。少しでも安心して出産に臨んでいただけるよう、安全に無痛分娩を行うための条件やお願いごとをいくつか設けております。以下の内容にご理解・ご了承いただいたうえで実施させていただきますので、ゆっくりお読みいただければと思います。ご不安な点やわからないことがあれば、どんな些細なことでも遠慮なく担当医・助産師にお尋ねください。

1. どんな方が対象になりますか

- ・ 無痛分娩をご希望される方
- ・ 医学的に無痛分娩が望ましいと判断される方
- ・ その他、何らかの理由で医師が無痛分娩が望ましいと判断した場合

2. 麻酔の方法

主に硬膜外麻酔で行います。状況に応じて、脊椎麻酔を追加することもあります。

3. 無痛分娩をおすすめできない場合について

安全を第一に考え、以下のような場合には無痛分娩をお受けいただけないことがあります。ただし、いずれも状況によって個別にご相談させていただける部分もありますので、心配な点があれば、まずは遠慮なく担当医にご相談ください。

- ・ 血液の固まりやすさに問題がある場合や、その他の理由で医師が麻酔の実施が難しいと判断した場合
 - 体重に関する一つの目安として、妊娠前のBMIが30以上の方、妊娠中の体重増加が15kgを超える方は、麻酔の難易度が上がる、緊急時対応のリスクが高い(気道確保困難)、麻酔効果の予測困難など原則としては対象外とさせていただいています。ただし、これはあくまで一般的な目安です。体格や経過には個人差がありますので、該当する場合でも、まずは担当医にご相談ください。状況に応じて個別に対応できることもあります。
- ・ 赤ちゃんとお母さんの安全を最優先に考え、胎児胎盤機能不全などがみられる場合
- ・ ご案内やお願いへのご協力が難しい場合
- ・ 麻酔を試みても管を入れることが難しい場合、麻酔の効果が十分に得られない場合
- ・ 分娩が重なるなど、クリニック内の体制上、安全な実施が難しいと判断される場合

4. 実際の進め方について

- ・ 計画無痛分娩と、オンデマンド(自然に陣痛が始まってから無痛分娩を開始する方法)のどちらにも対応しています
- ・ 陣痛が弱くなりやすい傾向があり、陣痛促進剤や吸引分娩が必要になることがあります。そのため、陣痛促進剤についての同意書もあわせてお願いしております
- ・ まれに予測できない合併症が生じた場合は、その時点で麻酔を中止させていただきます。たとえば赤ちゃんの心拍に異常がみられ、急いで出産する必要がある場合などです
- ・ 痛みを完全になくなってしまうと、産後の出血や血栓症のリスクが上がりやすいこと、また適度な「いきむ感覚」がないと分娩が長引いてしまうことがわかっています。そのため、痛みが我慢できる程度に残るよう、麻酔の強さを調整しながら行います

- ・ 無痛分娩を行っている間、食事やお飲み物に制限はありません。ただし、消化の良いものを、食べ過ぎない程度に召し上がることをおすすめします

5. 起こることがある症状について

無痛分娩には、まれに次のような症状が起こることがあります。事前に知っておいていただき、気になる症状があればすぐにスタッフにお知らせください。

- ・ 全脊髄くも膜下麻酔・局所麻酔薬中毒
- ・ アナフィラキシーショック
- ・ 赤ちゃんの心拍の異常
- ・ お母さんや赤ちゃんの発熱
- ・ 皮膚のかゆみ
- ・ 出産後の頭痛
- ・ 血圧の低下
- ・ 尿が出にくくなること
- ・ 硬膜外血腫
- ・ 原因のはっきりしない神経の症状(痛み・しびれ)
- ・ 陣痛が弱くなることによる、陣痛促進剤の使用
- ・ 分娩にかかる時間が長くなること

6. 費用について

項目	費用
無痛分娩(基本料金)	130,000円
陣痛開始後の急なご希望の場合	+30,000円(必要時は採血費用も別途)
夜間(21時～7時)の硬膜外麻酔チューブ挿入	+30,000円
長時間の麻酔管理(12時間以上)	+30,000円

子宮頸管熟化処置について

分娩が近づくと、子宮の出口(子宮頸管)がやわらかく開きやすい状態に変化していきます。これを「頸管熟化」といいます。この変化がなかなか進まない場合に、それを助けるための処置を行うことがあります。

1. 器具による子宮頸管熟化処置

- ・ メトロイリント:水風船のような器具です。お一人おひとりの状態に合わせて、中に入れる水の量を調整します。子宮の入り口がやわらかくなると、自然に外れてきます。
- ・ 吸水性の子宮頸管拡張器:やわらかいスポンジや海藻でできた、細い棒状のものです。周りの水分をゆっくりと吸収しながら広がっていきます。

まれではありますが、破水や子宮の損傷にともなう出血、感染などが起こることがあります。また、ごくまれにメトロイリントが外れる際に、へその緒が先に出てしまう(臍帯脱出)ことがあります。

2. お薬による頸管熟化処置

プロスタグランジンE2製剤(商品名:プロウペス)を使用することがあります。これは分娩のときに体の中で作られる成分と同じもので、最長12時間、腔内に留置します。費用は35,000円です。

頸管をやわらかくする作用のほかに、子宮を収縮させる作用もあります。重い副作用として、陣痛が強くなりすぎること(過強陣痛)や、赤ちゃんの状態が悪くなること(胎児機能不全)が起こる可能性があります。陣痛促進剤を使うときと似たリスクが考えられるため、プロウペスを使用している間は、お手洗いなど一時的な場合を除いて、分娩監視装置を継続して装着させていただきます。

次のような様子がみられたら、我慢せずすぐにスタッフにお知らせください。

- ・ 3分間隔で、痛みをともなう規則的な子宮の収縮がある
- ・ 痛みが急に強くなった
- ・ 長く続くお腹の張りがある
- ・ 破水した、気持ちが悪い、吐いてしまった
- ・ 赤ちゃんの動きが少ないと感じるなど、いつもと違う様子がある

無痛分娩時の陣痛促進剤について

陣痛促進剤には、脳の下垂体から分泌されるホルモンと同じ成分のオキシトシン製剤と、陣痛とともに体の中でも作られ、子宮の出口をやわらかくするプロスタグランジン製剤があります。子宮の状態やお母さんの体調に合わせて、必要に応じて使い分けます。基本的に、この二つを同時に使うことはありません。

- ・ 内服薬:プロスタグランジンE2を1時間に1錠ずつ、最大6錠まで内服します。状況に応じて、途中から注射薬に切り替えることがあります。
- ・ 注射薬:オキシトシン、プロスタグランジンF2αを、お母さんと赤ちゃんの状態を見ながら、点滴の速度を調整して投与します。

起こることがある症状について

慎重に管理を行うことで、陣痛誘発にともなう危険性はできる限り抑えられると考えられていますが、リスクを完全にゼロにすることはできません。あらかじめご了承ください。

- ・ 子宮収縮剤そのものの作用として、一時的な吐き気や血圧の上昇がみられることがあります
- ・ 発疹やぜんそく症状、アナフィラキシーショックが起こることもあり、こうしたアレルギー反応を事前に予測することは難しいとされています
- ・ 効果には個人差があります。少量ですぐに効果が出る方もいれば、多く使用しても十分な陣痛につながらない方もいます
- ・ 少量の使用でも、強い陣痛や過強陣痛が起こることがあります
- ・ まれに、子宮の筋肉の一部が裂けてしまう子宮破裂や、子宮頸管の裂傷、赤ちゃんの低酸素状態が起こることがあります
- ・ 重い合併症として、羊水塞栓症(羊水がお母さんの肺の血管に入りショック状態になること)や、分娩後の弛緩出血が起こることがあります

これらは陣痛促進剤を使用していないときにも起こりうるものであり、適正な管理のもとでの使用によって、自然な陣痛と比べてリスクが大きく高まることはないと考えられています。それでも、使用中に「あれ、いつもと違うかも」「急に痛みが強くなった」など、少しでも気になることがあれば、我慢せずすぐにスタッフにお知らせください。

無痛分娩・陣痛促進剤に関する同意書

いったん同意書をご提出いただいたあとでも、治療を受けることを取りやめることができます。その場合は、担当医師・助産師にお申し出ください。

また、分娩の経過中、お母さんや赤ちゃんの状態によっては、緊急で帝王切開に切り替えさせていただくことがあります。その際は、あらためて別途ご説明いたします。

あきせウィメンズクリニック

院長 明瀬 光里 殿

私は「無痛分娩に関するご案内」「子宮頸管熟化処置について」「無痛分娩時の陣痛促進剤について」の説明を受け、内容をよく読み、十分に理解し納得したうえで、無痛分娩を希望するとともに、陣痛促進剤の使用をお願いいたします。

また、この同意した医療を行ううえで必要な処置や、予測できない状況が発生した場合には、それに対する緊急の処置を受けることについても、あわせて同意いたします。

年 月 日

本人氏名: _____

配偶者氏名: _____